

9月の教室・行事予定等

日	曜	教室・行事等
2	水	フォークダンス (9:00~12:00) 生け花 (13:30~15:30)
3	木	隣保館職員実務担当者研修会
4	金	隣保館館長等研修会 健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:30~21:00)
5	土	人権啓発指導者育成講座 (13:30~
7	月	健康・太極拳教室 (14:00~15:30)
8	火	茶道 (13:30~15:30)
10	木	人権を考える日
11	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:30~21:00)
12	土	詩吟 (18:30~21:00)
14	月	健康・太極拳教室 (14:00~15:30)
16	水	フォークダンス (9:00~12:00) 生け花 (13:30~15:30) 健康相談 (13:30~15:30)
18	金	協力委員会役員会 (13:30~ 健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:30~21:00)
25	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:30~21:00)
26	土	詩吟 (18:30~21:00)
28	月	健康・太極拳教室 (14:00~15:30)
29	火	茶道 (13:30~15:30) 協力委員会 (19:00~

★開館時間： 平日 8:30~17:00
土曜日 8:30~12:00
土曜日の午後、日曜日、国民の祝日、年末年始は閉館しております。よろしくお祈りします。

～毎月10日は人権を考える日～
『迷信や風習と差別意識』

六曜のように科学的根拠がなく、「みんながそう言う(している)から」という理由だけで私たちの行動を制限している風習や迷信が、今も残っています。

同和問題は、被差別地区に生まれたというだけで偏見を持たれたり、差別を受けたりします。「生まれ」は自らの努力や選択の余地がないものです。部落差別がいかに根拠のないものであり、不当なものであるかは明らかです。

ある葬儀では、次のように実践している例も見られます。

母の葬儀の当日は、六曜迷信でいう「友引」の日でした。かねがね、迷信にとらわれる私どもの愚かさが部落差別をはじめとする様々な差別や偏見の温床のひとつであると考えておりましたので、私どもの考えを通ささせていただきました。父母なきのち、いっそうのご援助を心からお願い申し上げます。 喪主〇〇

「清め塩」は、ほとんどの葬儀で、会葬札状に挿入され、なかば習慣化し、当たり前のように思われていますが、～略～ 仏教では、決して「死」を「穢れ」と受け止めることはありません。従って、死を「穢れたもの」として「お清め」していく風習は無残であり、～略～ 仏式の葬儀では教えに照らし「清め塩」を廃止することにいたしました。以上の趣旨をご了承賜りますようお願い申し上げます。 〇〇苑

科学的・合理的な認識が、迷信や風習を打破し、偏見や差別をなくすことにつながります。私たち一人一人が科学的認識に立って、不当なこと、おかしいことを正していくことが求められているのではないのでしょうか。

西条市教育委員会・西条市人権教育協議会

大町会館 だより 9月号 第3回

人権啓発指導者育成講座 開催

2015年 9月 第185号
発行:西条市大町会館
西条市福武甲1644-1
TEL・FAX 55-5393
eメール
omachikaikan@saijo-city.jp



8月8日(土) 13時30分から、第3回目の人権啓発指導者育成講座が開催されました。連日の猛暑の中、34名の受講生が静かに熱心にお話を聴きました。講師は、四国中央市職員の尾脇修平先生です。「様々な人たちの思いを受けて」と題して、いろいろな人たちとの関わりを若い感性で熱く語られました。

まず、ご自身の体験に基づいたお話は結婚についてで、部落差別が一番根深く残っている証しでありましたが、大変清々しく心に響きました。

- ・恋人からの打ち明けに驚いたこと
- ・心のどこかに関わることはないだろうという思いがあったのではないかとということ
- ・恋人のお母さんの不安な思いや悔しさに胸がはりさけそうになったこと
- ・両親に決意を打ち明けるまでの不安感

など、その時々のお話は、今もこれからも心の支えとなる出来事だったと位置付けておられました。日々の生活の中で、差別という不安をかかえながら生活している人たちがいるということ。そして、親となった今思うことは、2人の子どもの将来への不安ということでした。

四国中央市では、隣保館事業として識字学級を開いており、対象は在住の外国人だそうです。彼女らは、日本語が分からず、学校からのプリントが読めなかったり、日本語の意味が分からないなどさまざまで、辛い思いをしながら日本で生活しています。日本語をもっと勉強し、子どもをいじめや差別から守ってあげたいという温かい母心が、学習の根拠となっているのではないのでしょうか。

いじめや差別のない地域社会を作っていくのは大人の役目です。子ども達に他人を思う心を育てる取組に視点をおき、四国中央市では人権教育の心を育てることを目標に掲げ推進しています。妻や義母の想いを胸に、これからも人権・同和教育に取り組みたいと結びました。

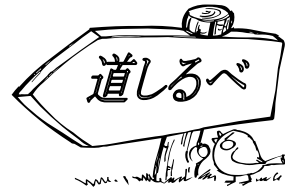
第185回 会館ミニ展示会

『 絵手紙 作品展 』



- ◇日 程 平成27年9月12日(土)～10月3日(土)
- ◇場 所 大町会館 玄関ホール
- ◇提供者 吉田千恵子先生と大町絵手紙教室のみなさん





『魂のやさしさ』

大町青少年健全育成協議会会長 加藤 義範

南中生に負けずに学ぼうと、三年前から地域の大人達が「大島青松園」に行き、共に学んでいる。ハンセン病を正しく理解し、被差別の苦しみを直に知り、自分の生き様を考えている。

青松園の中に「風の舞」という丘があり、観音像が立てられている。その建立のいわれが石碑に刻まれている。すごい文章である。

“一人ひとりが瀬戸の小島に閉じこめられ生涯を圧政に苦しめられたが、それに真っ向から闘いを挑んできた。しかし、同時に信心により心を落ち着け、身を天命に任せ、生死利害に悩まず生き抜いた。その証としてこれを建つ”

初めて見た時、魂が震えた。生きることのすごさを感じた。と同時に、“全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ”で始まるあの水平社宣言を思い浮かべ、その闘いの歴史を回顧した。西光万吉さんや阪本清一郎さんの部落解放運動と同じように、ハンセン病の人達も悪政に立ち向かった。

しかし、二つの宣言文の最後は、“身を天命に任せ”と“人の世に熱あれ、人間に光あれ”と、共に実にやさしく締めくくられている。

「冒瀆された魂の闘いが、ある時期人間をやさしくするのか？」 曰く不可解である。

この人間のやさしさが解かるまで青松園へ行き続けようと思う。それが解ければ、そして自分が世間にやさしくなれば、しっかりと生き続けられると思うからである。



大町青少年健全育成協議会副会長 塩崎 雅得

今回で、国立療養所大島青松園に、六回目の訪問をさせていただきます。行くたびに、本田さんと磯野さんには元気づけられます。

本田さん 32歳、磯野さん 11歳で、この青松園に来たそうです。

ここまでくるまで、本当に想像を絶するご苦労があった事だと思います。磯野さんは、小学校5年で家族から離れ、70年間ここで生活をしています。

磯野さんが作詞した『ふるさと』という曲の歌詞に、“母さんからの年賀状”で“母さんにそっと抱かれた時の温もり伝えてくれるんだ”とあり、心が熱くなります。

私たちは、誰でも自由に人間らしく生きる権利を持っています。しかし、誤った知識や偏見などから、人権が侵害されてしまうことがあります。

偏見、差別を無くするためには、一人ひとりが正しい知識を持ち、人権を尊重する心を持つことが大切だと思います。

これからは、私自身も、少しの力ですが、偏見や差別がなくなる世の中になるように、働きかけていきたいと思っています。



平成27年度 第2回健康教室を開催しました。



8月10日(月) 14時から、地域交流事業『健康教室』が開催されました。

第2回目の今回は、「ボケない食卓と食事ケア」ということで、認知症予防に関するお話でした。

済生会西条病院の管理栄養士 越智泉先生をお招きし、まず認知症の種類について学びました。

次に、認知症の早期発見について

- ①同じことを言ったり聞いたりする
- ②さっきのことを思い出せない
- ③水道の出っぱなしやガスの火の消し忘れ

等々、皆でチェックしました（これはあくまでも目安です）。

では、どのようにして防ぐのか。特別な食事はありません。1日3食規則正しく栄養バランスを考えて、生活習慣病を防ぐことがポイントです。そして、予防に効果のある習慣として、

- ・毎日誰かと会話や食事を楽しむ
- ・大きな声で新聞を読む
- ・日記をつける
- ・ストレスを解消する
- ・適度な運動をする
- ・歯の健康に注意をする

等があげられました。

旅行や料理、手芸や園芸、囲碁・将棋など、趣味活動には大きな効果があるそうです。

皆さん、何からでも始め、健康寿命を延ばす手立てをしてみませんか。

子ども会県外研修

8月13日(木)、竹の子や大町会館友の会の子ども会は、瀬戸内海にある大久野島で平和学習を行いました。

この島は、「毒ガス島」や「地図から消された島」とも呼ばれ、昔、毒ガスなどの化学兵器を作っていました。島には毒ガス製造の



建物や貯蔵庫跡、砲台跡や発電所跡が残されています

また、毒ガス資料館には、防毒マスクや作業服、毒ガス製造装置などが展示され、毒ガスや毒液の被害にあった人達の悲惨な写真には、戦争の恐ろしさを感じました。今、島には沢山のウサギが住んでいます。一説によると、昔、毒ガスを検知する為に飼われていたものの子孫ではないかと言われています。



ウサギにエサをあげたり、遊んだり…。戦後70年、いつまでも平和であり続けることについて考えるよい機会となりました。

第4回人権啓発指導者育成講座

標記講座を開催いたします。

ぜひご参加ください。

《日 時》 9月5日(土) 13:30~15:30

《場 所》 大町公民館 大ホール

《講 師》 山中 千枝子 先生

(千斗枝グローバル教育研究所代表)

《演 題》「インターネットと人権」(仮題)

どなたでも受講できます。

お申込みは大町会館(☎55-5393)まで。

会場は大町公民館です。
お間違えのないように!

